

第 3 回帯広市中小企業振興協議会議事録要旨

○ 昨年の 7 月に本協議会発足以来、9 月から各部会に分かれ、かなりの回数
の部会を開催してきた。各部会において討議されたことを、中間報告の骨子と
して委員の皆様へ配布しています。本日は、各部会での議論のポイントを各部会
長から報告いただき、中身については次回の協議会において議論することとし
ます。

○ ～事務局から中間まとめ粗案についての説明～

○ モノづくり・創業部会

討議項目は、創業起業、産学官連携、産業クラスター、地域ブランド

議論を通して感じた事は、中小企業側において、産学官連携、産業クラスタ
ー、地域ブランドの定義になじみがなく、専門の先生を講師に招聘し説明をい
ただいたが理解を深めることに苦心している。

創業起業というのは、帯広市中小企業振興基本条例の最も重要な部分である
と認識している。帯広が創業に最も適した地としてアピールし支援施策を構築
する必要がある。その上に立って、創業における教育が重要であり、義務教育、
高等教育を通して一貫したスキルの習熟と鍛練が必要であり、これらの議論が
中間まとめに集約されている。

産学官連携について、意見の柱は、現在ある施設をどう運営、利用していく
のか。もう一点は十勝の特性を考えた時、農産物の宝庫である点を背景として
食品加工に関する専門的な技術を習得する場が必要である。この 2 点に集約さ
れる。

具体的な施策として、高等技術専門学校において、食品加工コースを設置し
技術者の養成をすることにより、チーズ、お菓子、ハム、ソーセージ等の加工
技術の向上を目指すべきとの意見があった。

産業クラスターについては、その定義についての議論に時間を要した。この
地域においてチーズを中心としたクラスター形成の可能性について分析した資
料を基に、何が足りないかを明確にし、そこから検証していくこととしたが、
首都圏等域外をターゲットに販路を求めた場合、十勝の素材だけで原料確保す
ることの難しさが問題点として挙げられた。

また、地域の個店工房で製造されるチーズに関しては生産額が 5 億円程度と
予想され、地域を支える産業としては規模的に小さく、これをいかに産業化す
るか。産業振興センターが持つ機能と連携を図りながら取り組む体制づくりの
必要性について意見があった。

地域ブランドについても定義の議論があり、現在この地域にある三つの認証機関もそれぞれ色合いが違う。その以前に「十勝ブランド」として認証したからと言って、それがブランドと言えるか否かの議論があり、最終的にこれらを「屋号」ととらえ、重要なことはブランディングと言うブランド化するための過程であり、地域における切磋琢磨が必要であるとの結論に達した。

○ これまでの議論を通して、十勝帯広の潜在能力という、基盤がベースにある事が再認識された。色々な芽が出ているものを、いかに仕組みを作って機能させていくかが課題であり提言につなげて行きたい。

○ 経営基盤・人材部会

インターンシップキャリア教育では、子供たちに対する職業体験の必要性と、「十勝」と言う地域に関する教育の必要性について意見を得た。

人材育成では、経営者と従業員に分けた議論を行った。経営者自身の教育機会の重要性。経営がよく解らないままに経営者となった場合、効率の悪い経営となってしまう場合があり、そう言う意味での経営者研修の重要性がある。従業員についても、従業員が新入社員研修を行うことは体系的に難しい。中間職研修、他社の従業員との交流、社会人として幅の広さを身につける意味でも研修システムの重要性が議論された。

事業承継について、後継者育成の問題は、相談機能の充実が必要である。事業承継をスムーズに行う事は、地域から企業を減らさない事、雇用を確保することであり重要な部分である。

情報提供では、国、道、市色々なレベルで情報発信がなされている。この他、経済団体として商工会議所、同友会があり、これら全てを中小企業者が公平に受け止められている状況になっていないため、これらを改善させる取組の必要性について議論した。

交流の活性化として、十勝以外の人たちとの交流も含め経営者同士の異業種交流の必要性について意見が出された。

経営革新として、地域の中小企業が抱えている問題は多岐に渡る。現在の取組をさらに充実させる、不足した部分を補う意味での経営革新の必要性について議論した。

人材確保マッチング支援では、有能な人がたくさんいて、そのような人材を求めている企業もある。これらのマッチングをスムーズに行うことは両者にとって有益であり、地域にとっても重要である。このような場面を多く作っていく必要性について議論した。

○経営基盤・人材部会は非常に範囲が広く、専門的に掘り下げにくい部分があった。今後いかに施策に落とししていくのかと言う部分が課題となる。

○交流部会

観光資源の充実について、帯広において一番の資源の統一に時間をかけて議論した。このなかで、温泉、風景、空気、水、食べ物、農業、ばんばを観光資源として活かすべきとの意見を得た。また、これらを結びつける観光メニュー、体験メニュー、観光ルート作りを行い、農畜産業、食品工業とリンクさせていく必要性について意見をj得ている。

今後の検討すべき視点として、地域資源を活かした個性ある観光地づくりのための市民、企業、行政間の連携、協働のあり方の議論を深めていく。

イベントの充実・コンベンションの誘致についても、市民協働の取組が必要。食のメッセとグルメ市の検討。屋内スピードスケート場を活用したコンベンションを誘致すべきとの意見をj得ている。観光関連団体の体制の見直しを含め、イベント充実、コンベンション誘致促進が今後の検討の視点となる。

物産の普及宣伝について、食観光の推進は、「旬の地元食材の食べ方をホテルやレストランに教えながら提供すべき」「食材の仕入れルートを農家、農協、行政が協力して確立する」「豚丼に続くご当地グルメ、健康食の郷土料理の開発」等の意見があった。

今後は、帯広十勝ブランド食の開発、物産や食情報の発信について議論を深めていく。

誘客プロモーションの充実について、景観と食を組み合わせ、ゆっくりと滞在できる旅を売り込むべき、ネットでの情報発信、マスメディアの有効活用等の意見があった。

観光情報の発信力強化、十勝ならではの新しいツーリズムの開発に向けた仕組みづくり、道東自動車道の開通に向けた取組の検討が必要。

空港路線網と国際チャーター便の拡大については、ダブルトラッキング化による料金軽減のメリットを期待する意見もあるが、まずは利用客の増加を図る取組が必要。

今後は、国際化に向けた環境整備、24時間空港の実現に向けた視点で議論する。

○十勝自体の観光については、もともと良いものがあるという認識に立って、今までの団体中心の観光から今後は個人型に向かっていく流れの中で、この地域がおかれている環境は追い風になるとの共通認識のなかで議論を行ってきた。

これからの帯広十勝の観光はロングスティが向いている、ここに拠点を置く

て色々な所へ行ける魅力の発掘について検討を進める必要がある。そこには、地元の人がおもてなしができるだけの教育、知識が必要となる。今取り組まれている十勝検定も少しずつ進化していると聞いており、これらとの連携についても協議していきたい。

○ 産業基盤部会の位置づけは、他の三部会での議論を受けてその中からこの部会で取り上げるべき話題を集約する位置づけになっています。

この部会では、これから進めていく企業立地促進法をかなり意識し、具体的な予算付け等々を考慮した中で議論を進めていくという背景があります。

議論の方向としては、インフラ、共同利用施設、農商工連携の三点を考えています。

まず、インフラでは、この地域の特殊性に鑑みて、集積すべき業種の選定、産業集積のあり方について。

二つ目の共同利用施設については、地域内のコンパクトな施設について。

三つ目として、この地域内の経済循環の仕組みを目指すということで、農業、商業、工業の連携をどうするかと言う事。どのようにして経済循環としてお金や人がこの地域に回っていくのかと言う視点で検討を進めていきたい。

基本的には、この三点を論点の方向性に挙げていますが、今後各委員から意見をいただきながら、議論を深めて行きたいと考えています。

○ 以上、中間まとめの報告をさせていただきました。本協議会委員の皆様には、ご自身が所属されている部会以外の内容について目を通していただき、次回4月の協議会でご意見を頂きたいと思えます。

同時に各部会委員の皆様アンケートを求めて整理したいと考えているのでお願いします。

4月開催予定の第4回協議会に諮って「中間まとめ」の公表といたしますので承認願います。(拍手をもって承認)

次回協議会は4月15日午後7時といたします。

以上